

ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』のシナリオの公開

磯野 英治・西郡 仁朗

1. はじめに

言語景観研究が韓国や日本、中国やインドネシアなどアジアでも注目され、活発に研究が行なわれている（井上2009、梁2010、李2011）。最近では、来る2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催と外国人の受け入れに関連して、公共・民間表示をどのようにしていくのかが論じられるなど（西郡・磯野2014）、関連研究の中で大きなテーマのものも珍しくない。そして、言語景観研究の関心は、社会言語学や地域研究関連だけではなく、日本語教育に応用する方向が示され、既に実際の授業にまで導入されている事例も少なくなってきた（磯野2011,2013,2015、鎌田2014、ロング2014、磯野・西郡2017、李2019、磯野2018,2019、甲賀2019、ロング2019）。この背景は街中にある看板やポスター、ラベル、ステッカーといった「身近にある言語景観」が、生の日本語を活用した教材として有用であるからに尽きる。しかしながら、日本語教育に活用し教材開発を行った事例はかなり限られている上に、本報告のように科目としてまとまった議論を行ったり、その内容を公開しているものはない。

本報告の目的は、「1科目」として位置づけ可能な言語景観を活用した日本語教育のためのビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』のシナリオの公開である。すなわち、本報告の学術的な意義は、言語景観と日本語教育に関連するテーマそのものが萌芽的である中、その研究成果物であるビデオ教材に付随するシナリオを価値のある資料として提供できることにある。加えて、本ビデオ教材のシナリオを全文公開・共有することで、本ビデオ教材の理論的枠組みと具体的な内容の可視化を試み、実際にビデオ教材を使用する教員・学習者が、立体的な活用（ビデオ教材を活用する際の紙媒体としてのサポート）のイメージを持てるようにする狙いがある。

2. ビデオ教材制作の背景と理論的枠組み

既述のように、身近に存在する言語景観が内容を伴った日本語学習のための素材として有用だとされながらも、日本語教育に活用し教材開発を行った事例はかなり限られている。加えて、本報告のように科目としてまとまった議論を行ったり、その内容を公開しているものはほとんどない。現在、言語景観を活用した既存のビデオ教材（西郡・磯野2014）は、多言語状況から何が分かるか、民間表示からどのような地域の特徴や社会的背景、問題が読み解けるのか、といった「観点の習得」に主眼が置かれ、視聴覚教材ならではの身近な言語景観への「気づき」の向上も期待されている。そして本ビデオ教材の制作は、言語景観を活用した日本語教育を「1科目」として位置づけるための手段であり、学期中の毎回の授業で使用できるようなものを目指して制作されている。具体的には「毎回の授業の冒頭でその日のテーマに沿ったショートビデオ（3-5分）×全15回」を1本のビデオとしてまとめた教材であり、本報告では考案

したビデオ教材のコンテンツ、すなわち計 15 回のビデオ教材の制作に使用したシナリオを共有し、その観点を共有したい。

3. 先行ビデオ教材『東京の言語景観—現在・未来—』と本ビデオ教材の比較

本ビデオ教材の制作に先駆けて、これまでの研究成果（制作物）として既に公開されているビデオ教材『東京の言語景観—現在・未来—』をここで紹介し、本ビデオ教材との違いと発展の過程を以下に端的にまとめる。

表 1 『東京の言語景観—現在・未来—』の概要

目的	①国内外の上級日本語教育や日本語教育学、異文化コミュニケーション、社会言語学のための教材・研究用資料としての活用 ②2014年現在の東京都における言語景観の把握
内容	①言語景観に関する概説 ②公共表示の多言語対応 ③民間表示の多様性と言語景観の読み解き方（若者の街渋谷・下町浅草） ④2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた東京都へのインタビュー
活用場面 映像の時間	授業で部分的に当該テーマを扱う際の概要の把握や、科目として扱う際の導入に活用：13分
公開方法	http://nihongo.hum.tmu.ac.jp/mic-j/linguistic_landscapes/

表 2 『言語景観で学ぶ日本語』の概要

目的	①国内外の上級日本語教育や日本語教育学、異文化コミュニケーション、社会言語学のための教材・研究用資料としての活用 ②国内外の日本語の言語景観の把握
内容	①言語景観に関する概説 ②公共表示と民間表示の違いや観点 ③音声学・音韻論や語用論など、分野ごとに分類された言語景観の概論
活用場面 映像の時間	毎回の授業の冒頭、あるいは途中でその日のテーマに沿ったショートビデオ（3-5分）×全15回：1本の教材ビデオとして32分
公開方法	http://opinion.nucba.ac.jp/~isono/ （ウェブで一般公開）

表 2 におけるビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』は、制作者らが国内外で行ってきた上級日本語教育科目「インターネット日本語」、留学生と日本人学生混合の共通教

育科目「多文化コミュニケーション（日本語）ーことばの多様性・機能・効果へのアプローチと実践ー」、学部専門科目「異文化コミュニケーション」、大学院日本語教育学科目「マルチメディア支援による日本語教育論」などの授業実践の蓄積と成果である。言い換えると、本ビデオ教材のコンテンツは、これらの授業実践で培われた知見と資料が反映されているものであり、教育効果として実証性のあるものということもできる。さて、ビデオ教材の制作に向けて必要になるのがシナリオであるが、次章では本ビデオ教材のシナリオを全文公開・共有することで、本ビデオ教材の理論的枠組みと具体的な内容の可視化を試みたい。

4. 『言語景観で学ぶ日本語』のシナリオ

本章では、ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』のシナリオを全文公開・共有する。ビデオ教材のシナリオは、オープニングとエンディングを入れた全 17 ユニット（実際の内容は表 2 を参照のように 15 回）の構成で編まれている。

0 オープニング
<p>皆さんのまわりには、看板や掲示物、ポスターやチラシ、ステッカーがありますね。そこに書かれている言葉を意識したことはありますか。これらに書かれている文字言語を言語景観、Linguistic Landscape と言います。言語景観は公共空間にあり、不特定多数に向けられている、受動的に視野に入る書き言葉を指します。つまり、街で生活していれば、毎日この言語景観に触れている訳です。また日本だけではなく、世界中で日本語を目にすることもできますね。そして、その日本語に注目することによって、日本語の勉強にもなるんです。あなたの住んでいる地域には、どんな日本語の言語景観がありますか。今回は言語景観を通して、どのように日本語を勉強できるのか、その方法を解説しながら、日本と外国の日本語の言語景観をみていきます。</p>
1 言語景観の概論（定義・対象・観点）
<p>第一回では、言語景観の定義・対象・観点について整理していきましょう。</p> <p>まず言語景観の定義は、この表のように位置づけられています。言語景観は文字言語で視覚的な情報であり、公的な場で不特定多数の読み手に発せられる自然に、あるいは受動的に視野に入る書き言葉を指しているといえます。つまり、文字言語であって音声言語ではなく、意識的に読まなければならないものではないということです。対象となるのは、看板や掲示物、ポスターやチラシ、ステッカーや注意書きの小さなシールなど様々です。それでは、これから言語景観をどのように観察すればよいのかを具体的に見ていきましょう。</p>

2 公共表示と民間表示の違い

言語景観は公共表示と民間表示に分けられます。公共表示とは皆が使用するような機関や施設、交通機関に書かれているもので、例えば街にある役所や図書館、空港や電車、バスやタクシーに見られる言語景観をいいます。それに対して民間表示とは、主に商業店舗に見られる表示、例えば飲食店やデパート、コンビニエンスストアなどに書かれている表示のことをいいます。

公共表示と民間表示はそれぞれ役割が違うので、これらを分けて考えることが必要です。まず公共表示では、例えば駅構内の案内表示の中で公共性の高い表示、駅の切符売場やトイレなどは全て日本語、英語、中国語、韓国語といった4ヶ国語の多言語表記になっています。日本の公共表示では日本語だけということは少なく、日本語と英語の二言語表記や中国語や韓国語も含めた四言語表記が主流です。国際語としての英語、地理的に近く互いに影響しあうという地理的近接効果によって中国語と韓国語が見られるのです。

これに対して民間表示は、顧客のニーズや年齢、性別などによって様々な工夫がされています。例えば、若者向けの言語景観では、あえてカジュアルな話し言葉で表現したり、漢字で書くところをひらがなやカタカナで書いたり、縮約形を使用することによって、買いやすさや商品への近づきやすさを演出しています。詳しくはビデオ教材『東京の言語景観－現在・未来－』にもまとめられているので、ぜひ参考してみてください。

3 音声と表記

ここでは日本語の音声をどのように表記するのかについてみていきます。例えばこの看板を見てください。ある国際空港にある案内なのですが「空港セキウリティ」と書いてありますね。これは長音をいかに書くかという問題で起こったものです。日本語で記されると本来は「セキュリティ」となるこのような例は、外国人が日本語の音声を聞いた上でどのように表記するのかという難しい問題です。長音や撥音「ん」、促音「っ」などの特殊拍や有声音・無声音、有気音・無気音だけではなく、例えば韓国語であれば平音・激音・濃音などとも絡み、複雑になります。

一方、日本人が書いてもその表記に揺れが生じることがあります。例えば甘いものを示す外来語は「スイーツ」「スウィーツ」などいくつかの書き方が見られます。同様に「エアコン」と「エヤコン」、「グッズ」と「グッツ」など、このような言語景観は少なくないようですね。

4 使用文字の多様性とその効果

日本語はひらがな、カタカナ、漢字を使い分ける言語ですが、言語景観には通常漢字で表現する言葉をカタカナやひらがなで表現する例が見られます。例えばこちらの看板には「泡盛の試飲をオススメします」とありますが「オススメ」がカタカナになっていますね。このように一般的な書き方をあえてしないことにより、商品への近づきやすさや雰囲気作りに役立させているんです。また言語景観は文字だけではなく色やフォント、デザインと言った表現全体を工夫することで、伝えたい効果を変えることができるんです。このような特徴を持つ言語景観は街中に溢れています。ぜひ、探してみてください。

5 使用語彙の多様性とその効果

さて、ここでは自動販売機に書かれている言語景観に注目してみましょう。まず、この「eco る」は英語で **Ecology** を表す「eco」と、日本語で名詞を動詞化する接尾語である「る」で作られています。「ミスる」「ググる」「ラブる」など、英語から派生した単語に動詞の接尾辞「る」をつけて動詞として使う日本語表現は実生活でもよく使われていて、日本語母語話者には親しみのある表現です。しかし、非母語話者にとっては理解することが困難な表現の一つだと言えるのではないのでしょうか。

そして、「省エネ」は「省エネルギー」で、短く省略して表現しています。これは縮約形というもので、ことばを短く省略することで呼びやすくするとともに、親しみを感じさせる演出をしているんです。スマホやプリクラ、など一般的な言葉として定着したものもたくさんあります。これらの言語景観は街中で多くみることができ、また話し言葉でもよく使われます。

6 ピクトグラム・記号

言語景観にはよく絵が使われていますが、これらをピクトグラムと言います。ピクトグラムとは、何らかの情報や注意を示すために表示される絵文字や絵単語と呼ばれるものの総称です。

しかしながら、ピクトグラムの中には文化的知識を必要とする例もあります。例えば、こちらには「なまず」の絵が書かれています。日本ではなますが地震を引き起こす、あるいは地震を予知するなど、様々な説と言い伝えがあり、なますが地震と密接に関連することからこのような絵が書かれている訳です。この言語景観の場合、なまがの絵を書くことによって、この道路が地震などの災害時に緊急車両用として活用されることを表している訳ですが、もしピクトグラムが強調され文字が小さければ、外国人にとっては何を示している看板か分かりにくいのではないのでしょうか。

このような国や地域に関する個別の事例は、文字や記号でも観察することができます。例えば、これは民宿の案内表示ですが和と洋とありますね。和室と洋室を理解するだけではなく「布団とベッド」「たたみとフローリング」「トイレ等の和式・洋式」、また食事の「和食と洋食」までを併せて連想しなければならない事例です。その他にも、日本ではよく見られる時間に関する記号論的に使用されている表記、まる、さんかく、ぼつなどの記号も該当するでしょう。

7 正用と誤用

外国の街に行くと、公共表示や民間表示の中に日本語を見かけることがあると思います。実はアジアを中心に外国語としての日本語に出会うチャンスが多いんです。そして、これらの日本語では、日本国内にある日本語とは少し違う特徴が観察できます。この「第7回 正用と誤用」から「第9回 役割と多様性」までは、主に海外の日本語について見ていきましょう。

まず、この看板をみてください。韓国にある焼き肉店の看板なのですが、よく観察すると「ホハモソ焼」と書いてありますね。これはカタカナの「ハトル」、「ソトン」の形が似ていて、外国人には間違いやすいことが表れている例です。このような間違いは誤用と呼ばれますが、誤用は次のように分類ができます。

まず、先ほどの「ホハモソ」のように文字が似ていて間違える誤用。そして、濁点や長音を間違えたり、ひらがなとカタカナを一つの単語の中で混用する誤用。あてた漢字、つまり意味を伝えるために代用した漢字の意味が日本語では違ってしまうもの。また現地で使用されている漢字をそのまま使ってしまうもの、などが代表的な例です。また文法的な誤用もあり、品詞の活用や統語に関してよく誤用が観察されます。

8 適切性・自然さ

同じく外国では、文字の表記や文法的な間違いはないものの、その場面や文脈に合っておらず、どこか変な印象を受けてしまう言語景観もよく見られます。

まず、こちらの看板では「作って上げます」に注目してみましょう。通常、店が客に対してこのような表現は使用しないことから「作っています」や「作ります」程度が適切ではないでしょうか。このような例は、相手と自身の関係による適切性の問題で、待遇表現にもよく表れます。

そして、こちらの看板はどうでしょうか。表記や文字に問題はないように見えるのですが。実はこの案内があったのは、韓国ソウルの観光地であるミョンドンにある薬局です。ヨモギ蒸しナブキンとは女性の日本人観光客に人気の健康用品、チムジルバンとはサウナを中心とした健康ランドのことです。そして、これらの内容を含めて再度検討すると、「チムジルバンで同じ効果が得られます」では、ヨモギ蒸しナブキン

の紹介と言うよりは、チムジルバンの紹介をしているように読めますね。この案内は「チムジルバンと同じ効果が得られます」の方が良さそうです。このような例は、文脈による表現の自然さが問題になる例です。

その他にも、送り仮名のルールなど、間違いではないものの、より自然な印象を受ける書き方や表現、という視点がありそうですね。

9 役割・多様性

外国では、日本語をアクセサリーのように使用することによってファッション性や洗練度を高めるといった意図を持つ言語景観を見かけることがあります。

この看板はインドネシアジャワ島第二の都市バンドンのショッピングモールにある服飾店のものです。アルファベットでそれぞれ「HARAJUKU」「shibuYa」と書かれていますね。これらは日本の流行を積極的に紹介し、世界的にも知名度のある場所を店舗の名称にすることによって、ファッション性の高いお洒落な雰囲気を演出しようとしています。このような例の特徴は、日本語をアルファベット表記にして読めるようにするとともに、易しい語彙で意味の理解を促していることにあります。文字が店舗やプリントTシャツに書かれることで、生産地や発祥地に関係なく何らかの雰囲気を醸し出し、アクセサリーやデザインの一部となっている例は、日本でも英語表記などで見られるのではないのでしょうか。

10 言語と経済

「第二回 公共表示と民間表示の違い」では、日本で見られる外国語を国際語としての英語、そして地理的に近く互いに影響しあうという地理的近接効果による中国語と韓国語、というように勉強しました。しかし、少し視点を変えてみると、例えば英語に関しては日本だけではなく、世界中で第二言語、あるいは第一外国語となっている現状があるのではないのでしょうか。これには言語の市場価値、言語産業、言い換えると言語の経済的・政治的影響力や、何語を勉強したら得かというような人々の意識や社会構造が関係していると言えそうです。

11 方言使用と都市・地方

街を歩いていると、地域の言葉である方言を使用した言語景観を目にすることがありますね。例えばこの三つの言語景観は大阪市内にある言語景観なのですが、二つの観点から勉強することができます。まず、これらを共通語としての日本語に変換する練習を行うことで、日常生活の中で使用されている日本語を再認識することができるでしょう。

次にこれらの言語景観は、方言の活用意識が異なるので社会言語学的な知識を得ることもできるでしょう。例えば写真①は大阪交通局の大阪を宣伝する広告、写真②は外国人観光客が多く訪れる道頓堀通りの喫茶店の案内です。つまり、写真①、②は方言を新鮮に感じる、あるいは理解できない旅行者などにとって、日常とは一線を画す場所であるという印象を与える外向けの方言活用で、これらは方言の観光活用や言語の装飾的活用にあたります。これらと写真③を比べてみると、写真③は天神橋筋商店街にある自転車のマナーに関する表示のため、地元住民向けの方言活用と言えますね。このように「外向けの方言活用」と「地元住民向けの方言活用」という分け方のほか、写真②と写真③を比較すると写真②は店舗の民間表示、写真③は警察署の公共表示であり、民間表示における親しみやすさの演出や公共表示における言語の歩みより型のローカル化使用という見方もできそうです。この他、写真①には「OSAKA は、まるごとテーマパークだ」のようにあえてアルファベットにして、国際的な観光都市をアピールするような表記も確認できます。

いかがでしたか。皆さんの住んでいる地域には、どのような方言が言語景観に活用されていますか。またどのような日本語の方言を知っているでしょうか。ぜひ、探してみましよう。

12 外国人集住地域と国際化・多民族化

日本国内にある外国語は英語、中国語、韓国語だけなのでしょうか。この看板は外国人が多く住む新大久保にあるハラール食品店のものです。東京在住の穆斯林のみなさんが新大久保周辺のハラール食品店を利用するため、アラビア語やインドネシア語、ネパール語、ヒンディー語など、多くの普段は見ない言語景観に出会うことができます。これらは日本に住む外国人向け、つまり外国人集住地域と国際化・多民族化に関連する言語景観と言えるでしょう。そして海外に目を向けてみると、例えば韓国にはソウル市で最も古い外国人街として、現在も日本人が多く暮らす東部二村洞（トンブイチョンドン）があります。そしてそこには在住者が利用するような店舗や機関が並んでいます。

外国人が増加している現在、その地域に住んでいる外国人のための言語景観、すなわち内なる国際化と多民族化に関連した言語景観は街中を探せばきっとあるはずです。意識して探してみましよう。

13 電気・サブカルチャーなど特定分野における街の表記

電気・サブカルチャーの街として外国人にも有名な東京秋葉原、大阪日本橋（こっぽんばし）、名古屋大須などに行ったことがありますか。これらの街は多言語表記がある程度進んでいるということも特徴の一つなのですが。

さらに特徴的なのは使用語彙と文字表記についてです。使用語彙では「萌え」「メイド」「リフレ」「ジャンク品」などの特徴的な語彙や、混成語、縮約形があります。そして、文字表記では外来語のひらがな表記、旧漢字遣い、文字に絵や記号を組み合わせた複合系などの特徴的な表記やほか、フォントや文字のデザインにも注目できます。

いかがでしたか。電気とサブカルチャーの街の特徴的な言語景観はこの表のようにまとめられます。皆さんもこのように伝統や文化、商品によって特徴的づけられた街の言語景観を意識してみてください。

14 社会的背景や使用意図

言語景観は「どういう意図で書かれているのか」「これは珍しいのか」など、社会的背景や使用意図を理解する、つまり社会を読み解くための手段として活用することができます。たとえばこのポスター、「イクメン」「カジダン」と書かれていますね。

「イクメン」は育児に積極的に取り組む男性、メンズ、「カジダン」は家事に積極的に取り組む男性を短く表現した言葉であり、新語として広がりここ数年の間に定着しつつあります。それではなぜこのような言葉が誕生したのか。それはあえて育児や家事を積極的に担当する男性を取り上げることによって、家庭の中の男女共同参画を促そうとしているのでしょう。観点を変わると日本での一般的な認識がどうであるからこのような言葉が生まれたのか、あるいはこのような言葉をあえて使用することによって従来からあるステレオタイプが強化されないのかなど、様々な議論ができそうですね。

もうひとつ、こちらの表示はどうでしょうか。「健康のため階段を使いましょう」とありますが、これだけを読むと「なぜエレベーターを使ってはいけないのか」、あるいは「それならばなぜ設置しているのか」、より具体的には「老若男女や健康を問わず奨励しているのか」など複数の疑問が思い浮かぶかもしれません。しかし、次の表示を見てください。「エレベーター運転について 階段を使って歩こう！ 節電のため階段をご使用ください」とありますね。実はこのような言語景観は、以前から見られましたが、特に増えたのは2011年の震災後なんです。つまり先ほどの「健康のため階段を使いましょう」という言語景観の本来の意味は「震災による電力不足改善のためにできるだけ階段を利用しよう」なのですが、当時「節電」が「震災」を連想させやすかったため、読む人への配慮からあえて他の表現で言い換えたんです。すなわち

「健康」という言葉を使うことによって、ポジティブに捉えなおそうとしていると考えることができます。

このように言語景観は、国や社会、地域の背景や書き手の意図を知る手がかりとなり、とても有用なんです。ぜひ、そういった目で街中の言語景観を眺めてみてください。

15 語用論的使用

これまでに日本と外国の言語景観の様々な特徴を勉強してきました。日本国内の言語景観は多くの場合、日本語母語話者が作っていると考えられますが、看板やポスターに書かれている日本語は言いたいことがはっきりと明記されているとは限らず、外国人にとって分かりにくいこともあるんです。つまり、表記や文法的な間違いはないのですが、書かれている通り、字義通りの意味には解釈できない、意図が読めないということです。このような特徴を語用論的特徴と言います。

例えば、これは喫煙所にある言語景観です。「700 度の火を持って、私は人とすれちがっている」と書いてありますが、これだけだと事実や状況を述べているだけで何を言いたいのか分からないですね。しかし、喫煙所とマナーという「文脈」と「だからなんだ？」というような「問いかけ」を与えることによって、本当に伝えたい意味が見えてきます。「たばこは喫煙所で吸うものであり、歩きタバコやポイ捨ては危険な行為なのでしてはならない」という明示的な意味、つまり本来の意味が浮かび上がってくるんです

特に、日本国内はこのような語用論的特徴を持った言語景観で溢れ返っています。そしてこのような言語景観をみつけて本来の意味を考えることは、実はコミュニケーションのトレーニングにもなるんです。ぜひ、挑戦してみてください。

16 エンディング

いかがでしたか。皆さんにとって身近な言語景観を通じて、どのような点に注目して日本語を勉強したらよいかを見てきました。もちろん言語景観を分析する観点や分類はこれだけではなく、例えばオノマトペや注意・禁止表現のバリエーション、新語や若者言葉など、様々な特徴を発見し、まとめながら勉強が可能でしょう。

日本は今、2020年東京オリンピック・パラリンピックや2025年大阪・関西万国博覧会を控える中、その環境整備に向けた転換期にあると言えるかもしれません。また外国に目を向けても、国際化はますます進んでいくことでしょう。これから世界はどのような変貌を遂げていくのでしょうか。言語景観を読み解くことで日本の、そして世界の未来が感じられるはずです。

5. おわりに

ビデオ教材のコンテンツである第1回から15回のテーマは「易→難」となっており、1科目としての成立に耐えうる設計になっている。本稿では制作したビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』について、その全容をシナリオの形で報告したが、テーマ全体としての核となっている「言語景観を活用した日本語教育」そのものは、まだ新しい教育観点、手法である¹。シナリオにもある通り、日本語教育に活用できる言語景観はこれだけではなく、無数に存在するといってもよく、授業担当者それぞれが学習者の日本語レベルや授業内容に応じて言語景観を収集、選択し、かつカリキュラムに反映させるのがポイントとなり、やみくもに導入すればよいというものではない。カリキュラムや授業実践例については、ビデオ教材のページに公開されている資料を参照されたい。

参考文献

- 李舜炯 (2011) 「看板表記に見る現代韓国の言語景観—大邱広域市を事例として—」『世界の言語景観・日本の言語景観』、中井精一・ダニエル ロング編、桂書房、pp.38-73.
- (2019) 「韓国大邱広域市の日本語の言語景観にみられる言語接触—日本語習得環境・社会的役割・受容状況を追求して—」『都市空間を編む言語景観』、ダニエル ロング・中井精一 監修、李舜炯 編、中文出版社、pp.231-256.
- 磯野英治 (2011) 「韓国における日本語の言語景観—各都市の現状分析と日本語教育への応用可能性について—」『世界の言語景観・日本の言語景観』、中井精一・ダニエル ロング 編、桂書房、pp.74-95.
- (2013) 「言語景観を日本語教育に応用する視点」『日語日文学研究』第86集、韓国日語日文学会、pp.289-302.
- (2015) 「身近にある言語景観を素材とした多文化クラスにおける教育実践」『日本語研究』第35号、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会、pp.193-200.
- (2018) 「言語景観を活用したビデオ教材の制作におけるシナリオについて」『韓国日本語学会第38国際学術発表大会予稿集』、韓国日本語学会、pp.79-82.
- (2019) 「日本語教育に活用可能な言語景観と教育実践—理論と方法—」『都市空間を編む言語景観』、ダニエル ロング・中井精一 監修、李舜炯 編、中文出版社、pp.183-206.
- 井上史雄 (2009) 「経済言語学からみた言語景観—過去と現在—」『日本の言語景観』、庄司博史・ペート バックハウス・フロリアン マルクス編著、三元社、pp.53-78.
- 磯野英治・西郡仁朗 (2017) 「ビデオ教材『東京の言語景観—現在・未来—』の公開

¹ 本稿のテーマである「言語景観と日本語教育」は、『都市空間を編む言語景観』（ロング・中井 監修、李 編）の中の「第二部 言語景観と日本語教育」で、ある程度まとまった議論や事例があり、このようなまとまった内容の書籍としての刊行は初めてである。

- と教育実践』、『日本語教育』166号、日本語教育学会、pp.108-114.
- 鎌田美千子 (2014) 「言語景観に着目した漢字テキスト作成の実践と課題—PBLの手
法に基づいて—」『日本語教育方法研究会誌』Vol.21.No2、日本語教育方法研究会、
pp.50-51.
- 甲賀真広 (2019) 「短期日本語研修における自発的学習を促す言語景観調査」『都市空
間を編む言語景観』、ダニエル ロング・中井精一 監修、李舜炯 編、中文出版社、
pp.207-229.
- 西郡仁朗・磯野英治 監修 (2014) 『東京の言語景観—現在・未来—』、東京都アジア
人材育成基金(ビデオ教材:https://www.youtube.com/watch?v=NHV338g_NBo)
- 梁敏鎬 (2010) 「日本と韓国の言語景観に関する事例研究—公共施設のトイレとゴミ
箱の表記について」『日本語文学』44集、韓国日本語文学会、pp.47-65.
- ロング・ダニエル (2014) 「非母語話者からみた日本語の看板の語用論的問題—日本
語教育における『言語景観』の応用—」『人文学報』第488号、首都大学東京、
pp.1-22.
- (2019) 「日本語学習者を悩ませる言語景観」『都市空間を編む言語景観』、
ダニエル ロング・中井精一 監修、李舜炯 編、中文出版社、pp.257-271.

付記

本稿は2018年9月に中央大学校(韓国)で行われた韓国日本語学会第38国際学術
発表大会で発表した「言語景観を活用したビデオ教材の制作におけるシナリオについ
て」を加筆、修正したものである。貴重な意見やアドバイスをくださった方々に感謝
申し上げる。

なお本稿は、平成29年度～平成31年度科学研究費若手研究(B)研究課題番号
17K13490「言語景観を教材とした社会文化的理解を目指す内容重視型日本語教育の
研究」(研究代表者:磯野英治)の成果の一部である。

(いその ひではる・名古屋商科大学 国際学部)
(にしごおり じろう・首都大学東京 大学院人文科学研究科)